

## IASLC/ATS/ERS 分類に基づいた肺腺癌組織亜型の分子生物学的特徴 —既知の予後予測マーカーとの関連—

佐藤克明

〔緒言〕 肺腺癌における IASLC/ATS/ERS 分類が2011年に発表され、従来より詳細な組織亜型分類が可能となり、その予後予測因子としての役割や分子病理学的特徴が報告されつつある。

〔方法〕 原発性肺癌切除例161名を対象とし、IASLC/ATS/ERS 分類を用いて組織型およびその役割を決定し、免疫染色を行った。

〔結果〕 患者の内訳は、男性74名(46%)、年齢中央値68歳、喫煙者78名(52%)、CEA 高値54名(34%)、病理病期 I : 111名, II : 25名, III : 23名, IV : 2名であった。病理学的には、微小浸潤線癌1名、浸潤性粘液産生性腺癌9名、浸潤腺癌151名であった。浸

潤腺癌は low grade 129名, high grade 22名に分類した。浸潤性粘液産生性腺癌は臨床的背景は浸潤腺癌と差はなかったが、TTP-1 陽性率は有意に低く、全例が癌幹細胞関連マーカー陽性であった。浸潤腺癌では、high grade の症例で若年、喫煙者、CEA 高値例、進行例、Mib-1 index 高値例、TTP-1 陰性例、E-cadherin 発現低下例、vimentin 発現例、P-glycoprotein 発現例が有意に多く、その予後は不良な傾向にあった。

〔結論〕 IASLC/ATS/ERS 分類による組織形態と様々な分子マーカーとの間に関連を認めた。